

# 地域市民による住区基幹公園の 継続性あるパークマネジメントに関する考察

則竹 登志恵<sup>1</sup>・川口 暢子<sup>2</sup>・秀島 栄三<sup>3</sup>

<sup>1</sup>学生会員 名古屋工業大学大学院 工学研究科 (〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町)

E-mail: clt15006@stn.nitech.ac.jp

<sup>2</sup>非会員 名古屋工業大学大学院 工学研究科 (〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町)

E-mail: kawaguchi.nobuko@nitech.ac.jp

<sup>3</sup>正会員 名古屋工業大学大学院教授 工学研究科 (〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町)

E-mail: hideshima.eizo@nitech.ac.jp

私たちに最も身近な都市公園である住区基幹公園では、市民や事業者など多様な主体が関わる運営管理が行われる公園が増えているが、公園ごとに状況が異なるためマネジメント手法が定まらず、各現場にて手探りで進められている。本研究は、住区基幹公園において、地域の市民等が継続的に運営管理に関わっている事例を対象に、市民が公園の運営管理に関わるきっかけに焦点をあて、きっかけが継続性の高い市民主体の公園運営活動にどのように影響しているかを明らかにする。

**Key Words:** park management, residential area parks, community organization

## 1. はじめに

私たちに最も身近な都市公園である住区基幹公園は、都市公園の整備箇所数の9割以上を占め、全国に9万5千箇所以上設置され、毎年少しずつ増加している。しかし、行政の財政難による維持管理費の停滞により、単位当たりの維持管理費用は年々減少しており(図-1)、加えて高齢化による人材不足などにより、全国の自治体で財政面、人材面の制約等からすべての公園を常に良好な状態で管理することが困難となっている。一定量が整備された住区基幹公園における今後の課題は、整備された都市公園のストック効果を最大限発揮させ<sup>1)</sup>、長く維持

することであり、そのためには、市民の協力や参加を図ることが不可欠となっている。国においても、今後の緑とオープンスペース政策の重点的な戦略の一つとして、「民との効果的な連携のための仕組みの充実」を設定している<sup>2)</sup>。

また、最近ではシビックプライドの醸成やサードプレイスの場として都市公園の有効性についての認識が広がり、行政の他、市民や事業者など民間の多様な主体が関わって運営管理が行われる都市公園が増えている。関連雑誌やweb上にも数多くの公園での活動紹介が掲載されており、実際に市民による様々な利活用の活動が加わることで、公園の魅力や質の向上につながっている事例は多い。しかし、公園周辺の土地利用、地形、環境、資源などの条件や関わる人々が公園ごとに異なるため、地域の市民や事業者が公園の管理運営に関わるためのマネジメント手法が定まっておらず、各現場において手探りで進められている。そのため、本研究では、その手法を部分的にでも明らかにすること目的とした。

## 2. 既往研究

既往研究を辿ると、地域の市民による小規模公園の運営管理に関して様々な研究が進められている。主要都市

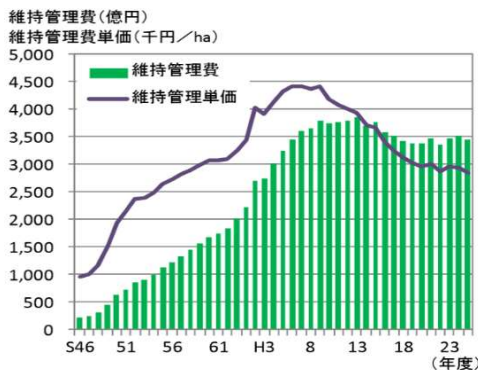


図-1 都市公園等の維持管理費の推移<sup>2)</sup>

部の街区公園では公園愛護会等の発足率が高く<sup>3)</sup>、住民参加の継続性には、単発的な個人の善意だけでなく、制度としてバラエティに富んだ支援が展開されており、市民と自治体をつなぐ存在による支援などが自立した活動につながるとしている<sup>4)</sup>。また、公園内で市民グループが主体的な取り組みを継続的に実施できている要因としては、住民グループによる自主企画・運営という主体性を重視した仕組みや、要望に迅速に対応してくれる職員の配置などが挙げられている<sup>5)</sup>。さらに、市民がボランティアで参加している場合、ボランティア保険の加入、安全マニュアルの配布等の安全管理、活動に必要な経費の付与、表彰制度等の支援が有効であり<sup>6)</sup>、活動に参加する市民が自由に意見交換できる場の創出、管理運営の方向性の共有、多世代が参加できるプログラムの構築が必要であると指摘されている<sup>7) 8)</sup>。つまり、単なる労働提供に終始せず、環境改善の企画・実施をはかることで住民の日常行為の中で継続的に行われる管理方法に改変することが求められている<sup>9)</sup>。公園での住民活動を通じて公園の環境を良好に維持することは、公園への愛着のみならず、地域への愛着を醸成する上で重要であり、自分のまちとしての誇りが高められるものと考えられる<sup>10)</sup>。

このように、地域市民が身近な公園の運営管理に関する研究が進められており、効果的な支援や仕組み、留意点など様々な観点での成果が明らかにされている。しかし、潜在的には公園管理に関わりうる住民が多く存在しているにもかかわらず、実際は関わっていない状況があることや<sup>11)</sup>、全国的にも市民と行政が協力して公園管理を行うアドプト活動の導入率は自治体が管理対象としている公園全体の1割以下に留まっていること<sup>12)</sup>が把握されているが、住区基幹公園において、市民が公園管理に参加する機会獲得の状況やあり方等、活動の導入部に関する研究は少ない。

### 3. 研究の目的および手法

そこで本研究では、活発なパークマネジメント活動を継続している住区基幹公園での事例において、どのようなきっかけや方法によって地域の市民が身近な公園の運営管理に関わるようになったのか、という点に注目し、継続性あるパークマネジメントに向けたスタート地点となる「入口のデザイン」のあり方を考察することを目的とする。

「入口のデザイン」の観点として、社会ニーズ、地域課題等の背景や環境に因るもの、参加の意思決定に因るもの、活動開始までのプロセスに因るものなど、まずはどのような要因が影響を与えているのかを検討し、これらがどのように関連していると継続性の高い市民主体の公園運営活動が実現されるかを検証する。

#### (1) 研究対象

行政によって整備された都市公園の質を向上させるためには、地域市民が身近な公園の運営管理に関わること、その活動が一時的なものでなく、継続されていくことが望ましい。よって本研究では、市民主体の公園運営活動を5年以上継続している活動を研究対象とする。

対象とする事例の選定については、全国の最も良い例を選定しその詳細な情報を得ることが理想的であるが、それは極めて困難であるため、筆者が業務を通じて知り得た活動団体の中から良好な事例を抽出し、研究への協力を得られた活動団体を対象とする。

#### (2) 対象の分類

国営公園での研究<sup>13)</sup>を参考として、市民による公園運営の活動グループを、その設立方法によって、市民の自発的な行動開始による「市民主導型」、公園管理者からの呼びかけによる活動が契機である「公募型」、既存団体を公園の運営管理団体と認可した「依頼型」の3タイプに類型化する。

#### (3) 研究の手法

本研究では、活動グループの設立方法のタイプ別に、住区基幹公園において市民が公園管理に参加する機会獲得と決定の際に影響を与えている条件を構成する因子を評価項目とした質的分析を行うものとする。使用する分析方法としては、本研究の調査で得られるサンプルサイズが小さいため、「フィッシャーの正確検定」を使用する。

#### (4) 要因の検討

「フィッシャーの正確検定」を行うため、まずは2×2分割表を作成する変数となる要因をできる限り多く挙げ、それらを吟味し、影響を与える要因として有効性があると考えられるものを選定する。

表-1 2×2分割表

	要因 S <sub>1</sub>	要因 S <sub>2</sub>	計
要因 T <sub>1</sub>	a	b	a+b
要因 T <sub>2</sub>	c	d	c+d
計	a+c	b+d	n

この分割表が生起する確率Pは次の式(1)

$$P = \frac{(a+b)!(c+d)!(a+c)!(b+d)!}{n!a!b!c!d!} \quad (1)$$

要因の調査は、研究対象とした市民主体の公園運営活動を5年以上継続している活動について、活動開始時期

の状況に関するデータや資料を収集し、また実際のヒアリング調査を組み合わせ、以下の観点で要素を抽出した。

- ・活動のきっかけになった経緯、背景
- ・参加している市民の意識
- ・活動を開始するまでのプロセス

上記の検討結果から、2×2 分割表の変数となる要因と帰無仮説を設定し検定する。

#### 4. 調査と分析の結果

##### (1) ヒアリング調査

研究対象とした市民主体の公園運営活動を5年以上継続している活動について、入手資料から抽出した要因の妥当性の確認のために、研究対象の中から類型ごとに複数個所の活動団体へヒアリング調査を行った。類型別の代表的な市民活動組織と活動概要等を表-2に示す。

##### (2) 抽出した要因

資料及びヒアリング調査の内容から、市民が公園管理に参加する機会獲得と決定の際に影響を与えている要素を抽出する。詳細な要因の項目は発表会にて示すが、抽出の観点を「支援」で捉えた場合、公園ごとに資金、人材、備品等の支援が「有る、無い」のように整理する。

##### (3) フィッシャーの正確検定

設定した要因を使用してフィッシャーの正確検定を行う。詳細な検定結果は、発表会にて示す。

#### 5. おわりに

本論は、住区基幹公園における継続性あるパークマネジメントの実現に向けて、既往研究を整理した上で、活

動のスタート時点で注目して調査及び検定を行った。活動を始めた際のきっかけとなった背景や活動の種類、活動が始まるまでの流れなどが、その後の継続性ある活動に大きく影響を与えているといえるかを明らかにする。

#### 参考文献

- 1) 国土交通省：都市公園のストック効果向上に向けた手引き, pp.5, 2016.
- 2) 国土交通省：新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会最終報告書, pp.8-18, 2016.
- 3) 金子忠一,内山正雄：都市公園の管理体制についての研究－特に、公園愛護会の発祥と現状の調査分析－, pp.99-104,造園雑誌,1982.
- 4) 重松良佳,亀井靖子,曾根陽子：公園管理における住民参加の実態－横浜市を事例として－, pp.1269-1270, 日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）,2011.
- 5) 藤本真理,赤澤宏樹,鳴海邦硯,中瀬勲：兵庫県立有馬富士公園における住民グループの主体的活動とその継続の要因に関する研究, pp.811-816, ランドスケープ研究 71 (5) ,2008
- 6) 伊藤大志,市村恒士：都市公園における住民参加型の維持管理活動に対する行政のインセンティブの付与の現状,pp.509-514,ランドスケープ研究 80 (5) ,2017.
- 7) 赤澤宏樹,藤本真理,武田重昭,中瀬勲：兵庫県立西武庫公園におけるコミュニティ型協議会によるパークマネジメント, pp.799-804, ランドスケープ研究 74 (5) ,2011.
- 8) 竹友翔一,内田文雄：都市公園の管理運営における地域住民の参画に関する研究－山口県宇部市ときわ公園を事例として－, pp.659-662, 日本建築学会中国支部研究報告集第 36 巻,2013.
- 9) 井上ちひろ,藍澤宏,鈴木麻衣子：都市居住地における街区公園・児童遊園の管理方法に関する研究, pp.9-15, 日本建築学会計画系論文集第 578 号,2004.
- 10) 窪田陽樹木,松尾薫,川口将武,赤沢宏樹,武田重昭,加我弘之：平城・相楽ニュータウン居住者の公園を媒介とした地域の愛着の醸成に至る意識構造, pp.545-550, ランドスケープ研究 83 (5) ,2020.
- 11) 山口純,武田史朗：京都市「コミュニティひろば」に対する管理運営主体及び地域住民の認識に関する研究, pp.507-512, ランドスケープ研究 81 (5) ,2018.
- 12) 国土交通省：平成 26 年度都市公園利用実態調査, pp.15, 2015.
- 13) 平松玲治：国営公園における市民参加活動の導入と展開に関する研究, pp.565-570, ランドスケープ研究 74 (5) ,2011.

表-2 類型別の主なヒアリング先

類型	市民主導型	公募型	依頼型
公園	荇子田太陽公園	春先の丘	豊町公園
種別	街区公園	近隣公園	街区公園
名称	荇子田地区公園 愛護会・太陽ロ ーズガーデン	春咲地区公園 愛護会	豊町自治会公 園プロジェク トYTK
場所	横浜市	岡崎市	沼津市
活動 概要	公園愛護会と自 治会等が協力し バラ園づくり	樹林地管理や ガーデナーの 養講座等	自治会内に公 園利活用チー ム発足し運営

(Received October 2 2020)

(Accepted ? 2020)

## SUSTAINABILITY OF PARTICIPATORY PARK MANAGEMENT OF RESIDENTIAL AREA PARKS

Toshie NORITAKE, Nobuko KAWAGUCHI and Eizo HIDESHIMA